



関高進路さくら便り



さくら塾開催

「自己アピール&プレゼン能力向上セミナー」

～30秒で想いを伝えよう。チャンスを掴む伝え方の秘訣～

10月26日(火)に、3年生を対象に面接セミナーを開催しました。関高校の探究活動の研究発表会などをご指導いただいております、本校の卒業生でもある、宇佐見 将太氏を講師にお招きしました。面接でいかに魅力的にわかりやすく自分をアピールし、相手に熱意を伝えるかの極意を、実践活動を通じて学びました。

いよいよ11月から推薦入試がスタートします。また国公立大学入試では、医療系など2次試験に面接を行う大学もあります。面接は、話すのが上手い、下手ではありません。“中身”で勝負です。高校生活であなたが何をやってきたのか、何を学んだのか、そして大学でさらに何を研究し、どう社会に貢献していくのか、あなたの実践や考えを、大学は知りたいのです。中身がなければ、テクニックを学んでも、メッキはすぐに剥がれます。中身が詰まっていれば、なおかつ「伝える力」が身につけば、それがあなたの魅力であり、これからの社会が必要とする人材となり得ます。

1, 2年生の皆さんは、どんな受験方式にも対応できるよう、今は日々の学習、探究活動、課外活動、部活動などを通じて、“中身”の充実を図りましょう。3年生の皆さんは、今まで頑張ってきたことに自信をもって、面接に臨んで下さい。応援してるよ!



「伝える力」

これからの時代、「伝える力」は非常に重要です。「伝える力」とは、情報を集め、整理して、自分の頭でアイデアを考え、相手に伝える能力です。「自分の考えを言わない」のは、「何も考えてない」とみなされます。今までの時代は、指示されて言われることをやってきた。これからは誰も正解を知らない世界を生きていかねければならないのです。「伝える力」を身につけた人が、これから社会で活躍する時代になります。

実践 “Elevator Pitch”

アメリカシリコンバレーには、超大手企業やIT企業などが集まっています。もしあなたが、エレベーターの前で、超大物に出会えたとしたら、それは大きなビジネスチャンスです。エレベーターに乗っている30秒の間に、あなたが自分を売り込めるか、もしくはだんまりの30秒を過ごすのかで、人生は大きく変わります。面接でどう自分を売り込むか?参加者は30秒で自分をアピールする実践を体験しました。1回目はうまくいきませんでした。伝える項目ははっきりさせることで、2回目の実践はかなり上達しました。あなたは、すべての項目をちゃんとと言えますか?



面接で伝える項目とは？

- ①課題やテーマ・・・コロナ、環境、高齢化など問題に思っている社会問題を分析し説明する。
- ②アイデア・・・自分なりの解決策を述べる。
- ③対象の人・・・どんな人に対して、どう対処するのか明確にする。
- ④ゴール・・・目指すゴールは何か明示する。
- ⑤特徴・・・なぜそれを行うのか、それがあなたじゃなければならない理由を述べる。
- ⑥相手のメリット・・・これがすごく大事！相手は自分にメリットがあると興味がわきます。
ズバリあなたが卒業して活躍することが大学にとってのメリットです。
- ⑦最初の一步・・・あなたがやりたい研究を具体的に述べる。

「伝えること」は、なぜ重要なのでしょうか？

「人に想いを伝えること」は「よく考えること」が不可欠。それを習慣化することで、大きく人生が変わってきます。人に想いを伝えることで、考えが深まり、またいろんな人と意見交換することで、どんどん人とつながり、アイデアがわいてきます。人に想いを伝えて、仲間を増やしましょう。きっとそれがもっと面白いことにつながっていきます。

ニュースに関心を持ち、探究活動で考える力を身につけ、授業で大いに議論を交わそう。これからの時代を生き抜く、君たち若者に大いに期待しています！



学校推薦型選抜ってどんな人材を求めているの???

東京大学が、Zoomを使った学校推薦型選抜オンライン説明会を行いました。ずばり東大が、一般入試ではなく、推薦型選抜で選抜する理由とは？求めている人材とは何か？を探ってみました。



教授のコメント

- 「いろんな事柄への幅広い関心や学びへの強い意欲が感じられ、本学での学びによって飛躍すると判断した皆さんを広く受け入れています。」
- 「私たちが歓迎しているのは、人生の目標があり実現のために東大での学びや研究を必要としている人です。その資質は、ペーパーでテストだけでは見えてきません。日頃皆さんの様子をご覧になっている高校の先生に、本学のアドミッションポリシーにふさわしいことを示していただくことも重要だと考えます。各種オリンピックやコンクールの入賞歴に限らず、証明になるものでしたらどのような形でも条件に満たしていると判断します。」

推薦入学生のコメント

- 「生物部では植物プランクトンの生息状況を研究し、日本陸水学会でポスター発表するなど熱心に活動しました。さらに東南アジアのカリマンタン島に訪れたのを機に、生態系や環境問題へ強い関心を持つようになりました。」
- 「自主的に始めた政治思想と震災行政に関する研究が、東大進学の手口となりました。高2の終わり頃から被災地へのボランティアに出向き、自治体の職員にも取材を敢行。体験を作文にまとめて政治学会に送ったことで発表の機会にも恵まれました。」
- 「学校推薦型選抜と一般選抜の準備の両立が大変でした。一般も視野に入れていたので、推薦と両方対策するのはかなり大変なことです。」

一般受験では見えない能力を磨くための、学校推薦型選抜や総合型選抜。これらに挑戦するには、やはり、“中身”が大事ですね！中身を磨こう。ピカピカにね！